



## イギリスという国

「老いを楽しむ③」

長女は大学で教えている。それでもイギリスの終わり頃、毎年イギリスに連れていく。教員としての授業は「国際保健学」なので、ナイチンゲールの国イギリスを欠くことが出来な

るが、バスで約2時間のところにあるという。私は学生の時、2畳半の部屋に大きな世界地図を張り、ある提出論文に「地図の部屋」というタイトルで、世界への関心の高さを表現した。恩師から大変誉められ、これが今の老いの楽しみの旅のきっかけになっている。

今、娘は学生たちの研修だけでなく、NGO活動でパレスチナをはじめ各地に出掛けていることが自分のことのように嬉しい。

さて、私がイプスウィチには行ったことがない



I live in the past



I don't care what people think



I'm a different person when the sun's out



I'm not bothered about a bit of dust



I never refuse a drink



I don't speak a foreign language

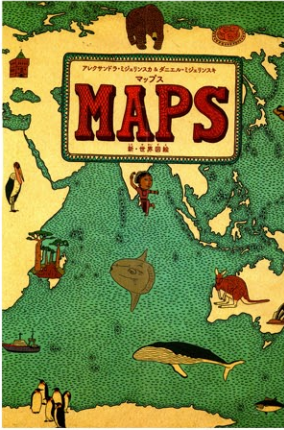


I'm lost without my dog



I wouldn't live anywhere else!

### イギリスから届いた私はイギリス人



4000以上のイラストで世界42カ国を紹介

ので毎日のように絵ハガキが届く。

「イギリス人らしい」と娘が言うように、確かにイギリス人をうまく表現しており、面白いのでそれを紹介する。

「私はイギリス人です」に始まり

①過去に生きている。  
②人が何を考えていても気にしない。

③日焼けすると、別人のようになる。

④多少の埃は気にしない。

⑤お酒を断らない。

⑥外国語を話さない。

⑦犬がいないと道に迷う。

⑧イギリス以外には住まない。

ウイットに溢れ、私の「紳士の国のイメージ」を些かも壊さない。かつての大英帝国時代を誇りにしているのが滲み出ている。

大英博物館に行けば世界中の何でも見ることが出来、日の沈まぬ国。今では面積も人口も日本より少ない。しかし、私にはイギリスは魅力的な国である。私も3度イギリスを訪れたが、過度な便利さを求めず自動販売機もなく堅実な生き方をしているように思える。

また、イギリス王室も好感が持てる。娘が土産に持ちかえる中には皇太子の子供たちのマグカップなど売られており、王室が自立に力をつけているのではないかとと思われる。

娘が連れて行った学生たちは、2週間弱の研修の旅で何を学んだのだろう。私のように老いの楽しみとして世界の国々に関心を持っているのもただ有り難いが学生たちが世界の国々と交わり関心を持つことの方がはるかにこれから役立つだろう。

今起こっているイギリスのEU離脱問題も学生たちにその考えを聞いてみたい。トランプ大統領のようになつてほしくないものだ。

娘の今回の土産の中に、大英博物館の売店で英語版の世界の地図図鑑があった。日本に帰国してアマゾンで調べると、日本語版も発売されたばかり。早速それを送ってくれた。「マップス」なる新・世界図

絵はポーランド人夫婦が世界42カ国を調べて発刊したという。やがて世界中の国々のものが発刊されるだろう。学生たちもこれらを見て正しい見識を更に持つようになるだろう。